

平成 23 年 6 月 11 日

第 1 回 学校協議会

出席者 大阪市立難波中学校長 東 邦裕 氏
戒橋筋商店街振興組合活性化事業統括部長 山本 英夫 氏 (欠席)
自彊会会長 三村 恵造 氏
PTA 会長 金城 宗和 氏
〈事務局〉 糀(校長) 曾根原(教頭) 丸石(事務長) 田中(首席)
小山(1 学年主任) 中須賀(2 年学年主任・首席) 西川(3 学年主任)

教頭 では、はじめます。本会の司会をさせていただきます。はじめに資料の確認をお願いいたします。よろしいでしょうか。では、校長からご挨拶をお願いします。

校長 本日はご多用中お越しいただきありがとうございます。また本日は第 1 回オープンスクールと重なり、慌ただしくしており申し訳ありませんが、その様子をご見学いただけますことを期して、この日に設定させていただきました。ご了承のほどお願いいたします。



さて、今年度は入試改革の影響等で、多くの府立高校で定員割れが生じるなど厳しい時期を迎えています。一方で、志学のような新たな取り組みも始まり、注目されているところです。本校もさまざまな取り組みを進めておりますが、よりよい学校づくりにご協力いただけますよう、本校の教育について忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

教頭 委員会の紹介を行います。

次に委員長を選出を行います。三村会長にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

教頭 では、議題に入ります。本日の議題は「本校の現状と課題」です。はじめに現状について、レジュメにしたがって報告します。

①13 期生の進路結果等について、

進学 70.6%、就職 0.6%、残り 28.8% (64 人) のうち 61 人 (昨年度 150%増) が浪人している。国公立、関関同立、ともに昨年度より減少した。これは、私大の AO 入試等に安易な進路選択に流さず、力のある生徒は、粘り強く頑張らせて国公立で勝負させる指導に力を入れたことや生徒が受験勉強に取り組む時期が遅かったこと等が考えられるが、細かく分析する必要がある。

②本年度の取り組み

今宮志学の導入に伴い、今までやってきたものを整理してリプログラミングしている。今年の 1 年次生の取り組みの詳細は別紙のとおり。学びを多角的に捉えさせ、学習活動を軸とする高校生活をより有意義なものにする取り組みを行っている。昨年度 1 年次生が行った「今高生

の主張」を引き継いで行う。

また、今年度から三学期制に戻している。新教育課程、来年度から理科数学の先行実施も見据えた上での決断ではあったが、平成8年度から実施してきた二期制を廃して三学期制に戻すのは、長期休業を境に区切るほうが、生徒の学習効果が上がると期待されるからである。しかしながら、同時に総合学科としては、たくさんある科目から好きな科目を選択できるという魅力と特徴は継続させていく必要がある。希望の進路を保障する確かな学習指導と、興味や関心を高める多彩な科目の学習指導とのバランスを保ちながら、今宮独自のカリキュラムを構築していこうとしている。

また、昨年度から全教員の授業評価をしている。マークシート方式で行っている。今年度も年2回行う。

③本年度の広報活動

昨年度から教員全員が最低3中学校に訪問するように決めた。今年度は、パンフレットを新調して、ポスターも作って配付した。意欲的な広報活動が行われている。

東 浪速区3中学の生徒数が減ってきている。その中で今年度は5人今宮高校に入学させていただいた。地元校としては、今宮高校がより一層発展してほしいと願っているが、地元中学との絆を強くできるようなシステムができないものか。例えば内申8以上だったら入学できるような制度など。

三村 同窓会をしたときに、今宮はこの頃えらい良くなっていると言われる。感謝している。
校長 今まで学校内でしてきたことを、学校外から言っていて、それを活用したいと思います。
金城 私はもともと大阪市立高校の教員だったこともあるので、それなりに学校の様子は分かっているが、多種多様な選択科目があって、その中で自分の好きな科目を選ぶことができるところが、息子や娘を今宮高校に入学させた理由である。そのような取り組みをもっと外にアピールすればよいのでは？

校長 その一方で、自ら選択できない、あるいは勉強のやり方が分からない子をどうすればよいかを示唆できているか、が課題になっている。

小山 今宮高校は制服がない。そのため、自主規制がある。自主規制の精神を今年度1年生は、宿泊合宿の時から自主規制について考えさせた。何のために勉強するのか、から時間をかけて考えさせていく過程が重要である。

中須賀 昨年度の「産業社会と人間」のまとめとして「今高生の主張」と題し、全員が自分の将来や現代社会のさまざまな課題について、心から思うことを3分間で皆の前で語り、それを文章にしてまとめ、文集にした。スピーチは2日間のクラス大会のあと、多目的ホールでクラス代表が集まって学年大会を実施した。自分が本気で思うことを、うまく人に伝える技術と強さをもつことが15～16歳の生徒には必要だと考えた。すると、生徒ひとりひとりがそれぞれの生い立ちの中で、さまざまなことを考えていることがよくわかった。それぞれの3分間が、人権学習の時間になったり、世界平和を考える時間になったり、地球環境問題や高齢化社会を考える時間になったりと、目から鱗の思いだった。

- 金城 官僚になって、一般庶民の痛みもわかる官僚や政治家になって欲しいというのが理想である。大学生にも文章を書かせるが、書けない学生が多い。一定の信頼関係を築けているから、本音が言えるのだと思う。
- 西川 できるだけ文章を書く機会を持つようにしている。力もある。もう少し時間をかけて教えたい。
- 小山 言語活動を盛んにしていくと書くという力がつく。4つの言語活動を頻繁に行うことがいいだろう。志学が、教科学習に還っていく、それが生徒の中で一体となっていくのが、今宮の学びの目指すところである。
- 三村 今日のミニ文化祭では、司会がまず上手。パフォーマンスが上手。コラボがいっぱい出てきたのはすごい。今宮の学びがよく伝わってきた。観客と一体となっていた。わずか30分の中ではあったが、素晴らしい時間であった。
- 教頭 6月のオープンスクールは興味関心で来る。実際に受験しようと思っている子ばかりが来るわけではない。だから、今宮はこんな学校ですよ、という雰囲気が伝わればいいと思っている。
- 校長 中学生にはいろんな高校を見てほしい。そのうえで本校に進学したいと思う子が受験してくれればいい。
- 教頭 総合学科はいろいろな学びができるし、今宮高校はクラブも盛んだし、となると、必然的に教科科目の授業が少なくなる。それをどう解決するかが問題である。クラブもしないといけない。いつも喧々譁々の議論になる。そして、どこか中間的なところでまとまる。というのが本校の実情である。1つの解決法として、来年度から45分7限にして圧縮して実施する。
- 校長 また、生徒個人のモチベーションをどう上げるかが大事。志学で学んだことが教科学習に対するモチベーションの上昇に繋がるようになればと思う。
- 東 こどもは今宮に何を求めたいのか。今宮は自分で考えて生きる術を先生と一体となって考えるのが正解だと思う。それができているように感じる。
- 教頭 今年が目玉である志学の方向が正解であるということなので、自信を持って進めていきます。次回は教科書採択結果一覧をお見せします。採択に際しては、教科で決めて教務部で集約する手順で行っています。
- 校長 浪速区の中学校は最近どうですか。生徒のようすや地域のようすはどうですか。

東 どのような生徒や周囲の環境であっても、悪いものは悪いと毅然とした態度を貫いているので、浪速区内の3中学は落ち着いています。しかし、大阪市内の中学校130校のうちの50校程度は授業成立が困難になっていると言える。

金城 今宮はこれまで行ってきた、人間力を鍛え、自己解決能力を高める学校であることをもっと宣伝してもいいと思う。人として最も大切なことを押している学校だと感じる。

三村 多目的ホールでは男子が少なかった。男子が少ない。

校長 これでも男子30%は維持している。
(部活動活性化の話に転じる)

金城 日常的に2つのクラブを兼ねるのは無理か。

東 高校体育連盟の二重登録の問題がある。

教頭 人間力を高める志学で今年はやってみて、また11月にどうなっているか、ご意見をいただければと思います。それでは、終わります。